

新米パパへのアドバイス

校長 武井 正明

またまた身近なところで新しい命が誕生した!! 元気な 3040 g の女の子。母子ともに健康、無事生まれてくれて本当によかった。父親となった彼も、待望の赤ちゃん誕生に嬉しさでいっぱいだろう。羨ましい…いいなあ。もう帰ってこない遠い日。これから、いろんなドラマが待っているはずだ。毎日楽しみながら、子育てに励んでいただきたい。

娘が小さい時。

出勤や休日の部活の朝は、基本的に出発直前まで娘と遊んでいた。駐車場から手を振る。娘は妻とアパート 2 階のベランダから見送りだ。

車に乗り、ゆるゆると進めて車が見えなくなる瞬間…

「パッ、パーっ」

この声にすかさずバックする。すると娘は歓声をあげて喜ぶ。これを数回繰り返してから出勤していた。今考えると安全面で問題がある。新米パパはやらないほうがいい。

言葉を覚えるようになると、絵本を読んだ。よく読んだのはノンタンシリーズだが、記憶に残っているのは、やはりアンパンマンだ。娘は泣くと、よく私にアンパンチをした。

何回も読むから、娘は内容を熟知している。

アンパンマンが、動物園で次々といろいろな動物に遭遇するシリーズがあった。

「次の場所に行くと、おやおや、鼻の長い動物がいました」「ド」

「そーです!! 象です。象がいたのです!!」

「そして次の場所に行くと、首の長〜い動物が…」 「チリン」

「そーです!! なぜわかるのでしょうか。不思議です。なんときりんがいたのです。ひょっとしてもえちゃん知ってた？」 ウン、「スゴイ、天才!!」これを何度も繰り返す。

もうちょっと知恵がつくようになると、今度はこちらから仕掛ける。

「パパ、ビール飲みたいな。もえちゃん栓抜き取ってきてくれますか?」「イイでちゅよ」ありがと、と言って栓抜きを反対にして栓を抜こうとする。「あれえ?おかしいなあ」すると娘は「ちがうヨ」と言って笑う。まだ余裕。

「そっかそっか、メンゴメンゴ」と言って今度はビールを反対にする。するとパパのアタマがおかしくなったと思って、慌てて心配顔で「ちがうよちがうよ!!」と私を揺さぶる。これが可愛かった。ただこれは妻に叱られ、1回しか使えなかった。

寝る前はお話をしてほしいとせがまれた。でももう毎日眠くてしょうがない。

「むかしむかし、おじいさんとおばあさんがいませんでした。おわり」えっ?

「…大きな桃が、どんぶらこ、どんぶらこと流れて行ってしまいました。おわり」えっ?

これは絶対にしない方がいい。大人を信じない子どもに育つおそれがあります。